



MONTHLY

れんごう

北海道

2022.12.5

No. 347

<http://www.rengo-hokkaido.gr.jp>

発行

日本労働組合総連合会 北海道連合会

発行責任者

藤盛敏弘

T060-8616 札幌市中央区北4条西12丁目 はくろうビル6F TEL (011) 210-0050 center@rengo-hokkaido.gr.jp

北海道高校生平和大使派遣10周年記念事業

「被爆ピアノコンサート～あなたにとって平和とは～」を開催

高校生平和大使を中心とした道内の高校生10人が実行委員会を立ち上げ、自ら企画・運営・主催し、各地域の多くの高校生も参加する平和大使派遣10周年記念事業「被爆ピアノコンサート～あなたにとって平和とは～」を開催した。

高校生平和大使を国連欧州本部に派遣する活動は、北海道においては道退職者連合と連合北海道が「北海道高校生平和大使派遣実行委員会」を発足させ、2012年から北海道在住の高校生を「北海道高校生平和大使」として国連欧州本部に派遣している。今年が北海道からの平和大使派遣から10周年であり、記念事業として全道4都市・9ヶ所で「被爆ピアノコンサート」を開催した。

被爆ピアノは1945年8月に広島や長崎への原爆投下で爆心地から約3キロ以内の民家などにあったもので、被爆2世の調律師矢川光則さんが修復し、全国で演奏会を開き、日本では映画化もされている。

2010年にはアメリカ同時多発テロ慰霊祭のニューヨークで、2017年にはノルウェー・オスロでの「ノーベル平和賞コンサート」で演奏され、その存在が世界的にも知られるようになった。道内開催は15年ぶり。

学校訪問では「被爆ピアノ紹介と体験演奏」、コンサートでは、被爆ピアノ紹介のちに札幌のジャズピアニスト豊口健さんとシンガー高野雅絵さんが「原爆を許すまじ」や「さとうきび畑」「ハナミズキ」など6曲を披露。また合唱や軽音楽、演劇で「被爆ピアノ」と地元の



多くの高校生がコラボした。被爆ピアノ紹介では矢川さんは壇上から「原爆の悲惨さを語り継ぐ被爆者が高齢となり減少している。被爆ピアノの役割は大きくなる」と話した。

開催前から多くの報道もあり、各会場とも連合北海道や退職者連合の組合員以外にも、たくさんの市民が「被爆ピアノ」の音色に耳を傾け、戦争がない平和な世界が実現することを願い、自分にとっての平和を考えるものとなった。お越しいただいた皆様に感謝申し上げます。

〈この記事のアドレス〉

<http://www.rengo-hokkaido.jp/whatsnew14/wp-content/uploads/20221026hibakupianokonnsa-to.pdf>



2022平和行動 in 沖縄に「北海道代表团」を派遣

連合北海道は、11月1日から5日の日程で沖縄県に18人の北海道代表团を派遣した。例年、「平和行動 in 沖縄」は6月23日(沖縄慰霊の日)を中心に実施されているが、今年は第26回参議院議員選挙があったため、6月の行動は代表者派遣にとどめ、改めて連合北海道独自の取り組みとして実施した。

今回の平和行動は、沖縄返還50年の節目の年でもあり、基地を抱える沖縄について改めて考え、基地問題に取り組む運動の前進につなげることを目的に、伊江島をはじめ、辺野古、道の駅かでな、ひめゆり資料館、平和祈念資料館などを見学した。

平和行動1日目は、全道各地から沖縄への移動とし、2日目は伊江島に渡航、島内各所を伊江島観光バスの山城克己代表に案内いただいた。山城代表は、「伊江島は“沖縄の縮図”“沖縄戦の縮図”と呼ばれている。伊江島を見れば、沖縄の基地・観光・農業など、沖縄の構造がわ

かる」と、ニャティヤ洞(千人洞)や芳魂之塔、被爆慰霊碑など、限られた時間の中で10ヶ所近くを案内した。

伊江島には反戦平和資料館をはじめ、アーニー・パイル記念碑や集団自決のあったアハシャガマなど、沖縄を一周しなければ見ることのできないものが伊江島にあることを紹介していただき、改めて「沖縄の縮図」「沖縄の現実」を学習した。

そして「わびあいの里」では謝花悦子代表理事が伊江島の歴史について「強制的に土地を奪われた伊江島真謝の農民は生きるために那覇の町で『こじき行進』を行い、全国に知れわたり、遠い北海道の炭鉱で働く労働組合からも、食べ物や服が送られてきた」と北海道と伊江島の関係について語り、最後に謝花代表理事は「平和より大事なものはない。この世の宝は命であります」と述べた。

3日目は辺野古(キャンプシュワブ)を見学、その後、



連合沖縄の事務所にて琉球新報社中部支社島袋良太報道グループ長より講演を受けた。島袋グループ長は「沖縄には在日米軍専用施設の7割が集中しており沖縄に歪みをもたらしている」「もう一つ問題点は、米軍専用施設というのは日米地位協定上、排他的管理権があり日本の法律が適用されない」「例えば沖縄で特に問題になっているのが水質汚染問題で、米軍基地から流れ出た、心疾患やがんの割合が高いデータがある消化剤(有機フッ素化合物ピーファス)が川で検出された。主権国家として国民の命に関わることができない」と沖縄の問題点をデータに基づきわかりやすく講演した。

4日目は糸数豪(アブラチラガマ)に入り、ひめゆり学徒隊が岩に体を寄せ仮眠をしていた話や、平和資料館、ひめゆり資料館では生きるために体液の混じった泥水を飲む話に参加者は驚きを隠せなかった。その後、嘉数高台にて普天間飛行場に配備されているMV22オスプレイ、道の駅かでなで嘉手納基地を視察

し、平和行動すべての行程を終えた。

沖縄の米軍基地問題を解決する道は「米軍基地の整理・縮小」と「日米地位協定の見直し」の実現にこそあると改めて認識し、連合北海道は日米共同訓練の規模縮小とオスプレイ参加の反対運動を全力で展開していく。



〈この記事のアドレス〉

<http://www.rengo-hokkaido.jp/whatsnew14/wp-content/uploads/2022/11/10okinawa.pdf>

今年4月からの「北海道ケアラー支援条例」の施行を受けて 「ケアラー支援の実情と課題」と題した学習会を開催

連合北海道地域福祉・社会保障研究会は、11月5日に北海道地方自治研究所との共催で、「ケアラー支援の実情と課題」と題して、えべつケアラーズ代表/北海道ヤングケアラー相談サポートセンターセンター長の加藤高一郎さんを講師に招いて、学習会を開催した。講師の加藤さんは2015年から、介護や子育てをしている家族を支える団体「えべつケアラーズ」を立ち上げ、支える人を支えてきた。講演の要旨は次のとおり。



講師の加藤高一郎さん

●そもそも「ケアラー」ってどんな人？

ケアラー(careをする人)とは、こころやからだに不調のある人の「介護」「看病」「療育」「世話」「気づかい」など、ケアの必要な家族や近親者・友人・知人などを無償でケアする人の総称。ケアは介護、障がいや病気の家族のお世話、アルコール依存や薬物・ギャンブルなどの問題を持つ家族の話し相手や見守り、親の通訳など多岐にわたる。

「ヤングケアラー」とは、家族にケアを要する人がいて、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話・介護・感情面のサポートなどを行っている18歳未満の子どもの総称。

●ヤングケアラーと呼ばれる子どもたちの特徴

・自分がヤングケアラーだという自覚がないので、自

分から助けを求めることが難しい。

- ・家庭のことを外に言いたくないし、隠さなくちゃ…とと思っていることもある。
- ・家族をケアすることを否定されたくない、負担になっていても大切な家族のためにケアしたい。
- ・ケアすることを否定されると、自分がしてきたことを否定されたように思いがち。

●ヤングケアラー支援での大切なこと

「ヤングケアラー」を見つけたオトナは、「何とかしなくちゃ！助けなきゃ！」と前のめりになりがちだが、子どもは信頼できると思ったオトナにしか心を開かない。社会福祉士、ケアマネ、先生、弁護士…肩書で相手を信用するのはオトナの世界。つかず離れずTikTokやユーチューブなど子どもの好きそうな話題を探って雑談を繰り返す中で、ぽつぽつと話し始める子もいる。

緊急時は別として、支援に踏み切るのか、今は見守るのか、その子がどうしてほしいのかをちゃんと聞こう。家庭内の介護や医療、経済問題など多職種の横断的支援が求められる。特に子どもと家族の関係には



徹底した配慮が必要。大人が気づいてあげよう。大人が手をさしのべてあげよう。大人が見守ってあげよう。

(この記事のアドレス)

http://www.rengo-hokkaido.jp/whatsnew14/wp-content/uploads/20221111_policy_news23-02.pdf

「北海道原子力防災訓練」の視察・調査活動を実施

連合北海道は、2022年10月31日「2022年度北海道原子力防災総合訓練」の視察・調査活動を行った。道の防災訓練は、原子力防災関係機関が協力して原子力防災対策を円滑に実施できるよう、防災業務関係者の防災技術の向上を図るとともに、住民の防災意識の高揚や、防災対策に関する理解促進を図る目的で毎年実施されているが、コロナ禍での地域住民の参加は2年ぶり。

■訓練の想定

新型コロナウイルス感染症流行下において、後志地方西部を震源とする震度6強の地震が発生。地震後、北海道電力(株)泊発電所3号機において、原子炉の一部冷却材が漏えいし、原子炉が停止。複数の設備故障等により、原子炉の冷却が不能となり、原子力災害に至ると想定。傷病者の搬送や、一時避難所への住民避難などの訓練が行われた。

■北海道原子力防災センター(オフサイトセンター)

共和町のオフサイトセンターには、国、道、関係13町村及び防災関係機関からあらかじめ定められた要員が参集し、各機能班を設置して、事故の状況や防災関係機関の対応状況などを把握しながら、必要な情報共有と自然災害との複合災害時における防護措置の調整・確認を行う目的で開設訓練が行われた。北海道庁の対策本部とはオンラインで結び、オフサイトセンターに参集した道・関係13町村職員、原子力規制委員会、内閣府、自衛隊などが対策会議に臨んだ。

■外国人や地域住民の避難所開設訓練

余市町福祉センターでは、地震に伴う避難所兼原子力災害に伴う屋内退避施設の開設・運営に関し、感染症対策や外国人避難者への対応を含めた手順確認を目的とした訓練が実施された。外国人避難者へのオンライン通



道庁の対策本部や13町村等ともオンラインで結んだ対策会議

訳の開設・運営に手間取ったり、多言語対応アプリのQRコードが読めないなどの不備があった。今後は、外国人にわかりやすい「やさしい日本語」の活用などを含め、緊急時の多言語コミュニケーションに課題を呈した。

地域住民による簡易テント、段ボールベッドの組み立てを体験しての避難所開設訓練も行われた。

■孤立地域などからの空路・海路での避難訓練

地震による道路の陥没等を想定し、孤立地域からは巡視艇や、陸上自衛隊のヘリコプターなどでの住民避難訓練も実施された。巡視艇は、コロナ禍での訓練においては十分な空間の保持が難しいとの判断で、住民を乗せずに海上保安庁乗組員が防護服を着用して美国港から余市港へ搬送訓練を行った。

今回の原子力防災訓練活動を視察した結果については、北海道総務部危機対策局原子力安全対策課と情報共有し、今後もより実効的な訓練となるよう取り組んでいく。

(この記事のアドレス)

http://www.rengo-hokkaido.jp/whatsnew14/wp-content/uploads/20221109_policy_news23-01.pdf



12月の主な動き

イベントカレンダー

■1日(木)10:00/浦安ブライTONホテル
第89回中央委員会

■5日(月)12:00/紀伊國屋書店前
集中労働相談周知街宣

■8日(木)~9日(金)10:00~19:00/
連合北海道

全国一斉集中労働相談

■13日(火)13:00/
ホテルポールスター札幌

組織拡大推進特別委員会

■15日(木)13:30/連合会館
第15回中央執行委員会

■16日(金)10:00/京王プラザホテル
第1回最賃対策委員会

■16日(金)14:00/
ホテルポールスター札幌

第1回中小パート労働条件委員会

■17日(土)13:00/
センチュリーロイヤルホテル

地域ユニオン第23回定期大会

■20日(火)16:00/連合北海道会議室

金属・機械部門連絡会幹事会

■21日(水)10:00/ロイトン札幌
第3回執行委員会

■21日(水)13:30/ロイトン札幌
第84回地方委員会

■21日(水)15:30/ロイトン札幌
第2回地協事務局長会議

各地協定期総会

- 宗谷地協
3日(土)13:30/稚内総合文化センター
- 上川地協
10日(土)10:00/アートホテル旭川
- 釧根地協
10日(土)13:30/
釧路センチュリーキャッスルホテル